

平成30年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程の編成に工夫を凝らし、生徒の意欲や関心の高揚に取り組む。</p> <p>② 国際社会で生き抜く高い人格と心豊かな感性を備えたグローバルリーダーの育成に取り組む。</p>	<p>① 新学習指導要領への円滑な移行を見据えながら、一人ひとりの個性を伸ばす教育課程の改善を継続する。</p> <p>② クリティカルシンキングを身につけ、他者と協働して問題解決にあたる授業研究を教科横断的に起こす。</p>	<p>① セメスター制の成果を検証するとともに、本校の実態や生徒の希望に沿った教育課程の改善に活かす。一人ひとりの個性を伸ばすことのできる授業を展開できるように年間教育計画を構築する。</p> <p>② クリティカルシンキングや協働的問題解決能力の育成に係る各教科の取り組みを教科横断的に共有し授業研究を進める。</p>	<p>① 本校、および生徒の実態に沿うような教育課程制度となっているか。個性を伸ばす授業内容、時間を確保できたか。また、様々な行事などの活動も展開できるような年間教育計画を構築できたか。</p> <p>② 各教科の授業研究に係る取り組みを、他教科と共有することができたか。</p>	<p>① セメスター制導入2年目となり、新たな科目が開講された。既存科目との連携により導入の効果が現れている。授業時間を確保する上で、実態に即した次年度の年間教育計画を構築することができた。</p> <p>② 研究授業、公開授業を前年度より多く実施することができ、教科相互の交流も活性化し共有することができた。</p>	<p>① 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、個性の伸長と進路実現に向けた効果的な教育課程の構築を検討する。舞台芸術科の設置を見据え、本校の特色が活きる教育課程、行事等についてグループ間の連携を密にして検討を進める。</p> <p>② 今後は教科横断的な取り組みを実施し、生徒の問題解決能力を高めて行く必要がある。</p>	<p>① セメスター制導入が効果を上げているが、理科の科目でも導入を検討してほしい。</p> <p>② 教科横断的な取り組みを期待している。</p>	<p>① 2年間のセメスター制における成果と、他教科への効果的な導入を見据えた検証を行うことができた。新学習指導要領の趣旨や舞台芸術科設置を見据え、本校の特色が活きる教育課程について学校全体での検討が必要である。</p> <p>② 授業改善に向けての気運は高まったが、教科横断的な取り組みは依然として十分とは言えない。</p>	<p>① 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教科横断的な取り組みを進めるとともに、セメスター制が本校生徒にとって効果的な導入となるよう組織的な検討をすすめる。</p> <p>② 「総合的な探究の時間」の改善から、各教科の教科横断的な意識を高めていきたい。</p>
2 生徒指導・支援	<p>生徒一人ひとりの個性を伸ばすことのできる教育支援を実践し、生徒にしっかり向き合った教育体制の充実を図る。</p>	<p>① 教育相談コーディネーターを中心として、組織的にきめ細かい教育相談体制を整備する。</p> <p>② 学校内外でいじめ防止のため、全職員で生徒たちの動向に注意を払い、また防止に向けた啓もう活動を行う。それとともに、いじめ発生時には、年次団・生活支援Gが協力し迅速な対応を行う。</p> <p>③ 多文化理解への柔軟性を高め、グローバルな社会的な課題への認識を深める。</p>	<p>① 月に一度、教育相談コア会議を開催し、問題を抱えた生徒についての情報を共有する。さらに、ケース会議を通じて、その情報を職員全体で共有する。</p> <p>② 管理職・生活支援G・年次団担当者で、いじめ防止のための啓蒙を行う。年に2回生徒向けのアンケートを行い、実態の把握に努める。いじめ発生時には、対策チームを発足させ、対応を行う。</p> <p>③ 多文化への柔軟性を育てるため、ホームステイ等の交流活動を増やす。グローバルな課題への認識を深めるため、グローバルエキスパートレクチャーやグローバルキャンプなどを実施する。</p>	<p>① 教育相談コア会議の場で提示された情報を、職員全体で共有できたか。</p> <p>② 全職員で、いじめ防止のために協力して、注意をはらう等の行動ができたか。</p> <p>③ 交流活動を増やすことで、異文化理解への柔軟性を育てることができたか。グローバルエキスパートレクチャーやグローバルキャンプなどを通して、グローバルな課題への認識を深められたか。</p>	<p>① 月一回、教育相談コア会議を開催し、課題を抱えた生徒について情報を共有できた。さらに、ケース会議を通じて、職員全体で情報を共有した。</p> <p>② 管理職・生活支援G・年次団担当者で、いじめ防止のための啓蒙を行った。年に2回生徒向けのアンケートを行い、実態の把握に努め、その結果について情報の共有を行い、きめ細かく対応した。</p> <p>③ グローバルキャンプの事前指導、事後指導の内容は前年より充実した内容で実施できた。全校生徒へのフィードバックによりグローバルな課題への認識を深めることができた。</p>	<p>① 課題を抱えた生徒について、個別に対応したが解決に長い時間を要する生徒もおり、継続的な支援を要する。今後とも、外部との連携を視野に入れつつ、取り組む必要がある。</p> <p>② いじめの問題に対しては、常にアンテナを張り、些細な生徒の動向の変化などを見逃さない必要がある。時代の変化の中でSNS上のいじめなど教員の目が届かないケースも増えてきている。これらの事例への対応方法について、検討していく必要がある。</p> <p>③ グローバルキャンプは学校行事として定着しつつあるものの、内容や、事前指導のあり方についてさらに充実させて行く必要がある。</p>	<p>① 生徒がスクールカウンセラーに安心して相談できる体制を維持し、生徒の情報を職員全体で上手に共有してほしい。</p> <p>② 表面化しにくいSNS上のいじめについても、きちんと取り組んでほしい。</p> <p>③ グローバルキャンプや、他校との英語でのコミュニケーション(ワールドカフェ)を通じて、グローバルな視点を育成している点は評価できる。</p>	<p>① 課題を抱えた生徒についてはおおむね対応できている</p> <p>② アンケートのみで果たして十分な対応が取れているか、今後考えていく必要がある。</p> <p>③ グローバルキャンプ等の国際行事で生徒の意識を高めたことはできたが、主体的な取り組みをいっそう促して行く必要がある。</p>	<p>① 潜在的に課題を抱えた生徒の早期発見については、引き続き努める必要がある。</p> <p>② SNS上の書き込みへの対応を発見するためには、どうしていけばよいのか研究課題である。</p> <p>③ 国際的な行事の運営をなるべく生徒に託すなどして主体的な取り組みに向けて意欲を高めていきたい。</p>

3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化した進路支援の流れを作り、生徒が自らの将来像を見据えて早い時期に目標を定められるよう情報提供を行い、多様で主体的な進路選択を促進する。	<p>① 自己目標発見がタイムリーにできるよう、行事等の機会を活用する。</p> <p>② 進路情報リテラシーを育成する。</p> <p>③ 多様なデータの活用及びフィードバックを充実させる。</p>	<p>① 進路行事の教育的効果を高めるため、生徒の必要に応じた分野を検討する。緊密に連携を行い大学や卒業生の協力を得られるよう調整する。</p> <p>② 校内模試の実施、校外模試・オープンキャンパス・学習ツール等に関する情報や入試情報の提供を行う。</p> <p>③ 進路支援業務に係る各種データの取り扱いについて慎重に検討を進める。</p>	<p>① 進路行事やオープンキャンパスへの参加により生徒の意識に変革はみられたか。</p> <p>② 模試や学習ツールの利用により生徒の学習への意識に変化は見られたか。</p> <p>③ 各種データの取り扱いについて、校内の関係各方面と情報の共有が図られたか。</p>	<p>① 複数の機会を設け、生徒は自ら多角的に進路を見つめることができるようになった。</p> <p>② 年次で模試の分析結果を聞く機会を設け、学習姿勢や意欲に変化が見られた。</p> <p>③ 「大学入学者選抜改革・主体性等の評価」に向けて、オンライン進路個人データ管理ツールを導入し、活用に向けて課題の共有を行った。</p>	<p>① 各行事がどう行動に結びついたか検証する方法について今後の課題となる。</p> <p>② 学習ツール利用について周知し、活用促進を図る。</p> <p>③ オンライン進路個人データ管理ツールの活用度を高めるために、十分な時間を確保するなど環境を整える必要がある。</p>	<p>① 年度当初に各教科で学ぶ意味を、教育の視点で話してほしい。</p> <p>② テーマ研究素の発表は素晴らしかった。今後は、高校の学びが大学につながるようにして欲しい。</p>	<p>① 内容・時期ともに適切な進路行事を行うことができた。自己探求力育成のために行事後の振り返りを蓄積させる必要がある。</p> <p>② 集会時のフィードバックにより進路への関心が高まった。また、より高度な内容の学習ツールを求める生徒もいた。</p> <p>③ 「大学入学者選抜改革・主体性等の評価」に向けて導入前年度の23期生も含め、さらに対応の準備を進める。</p>	<p>① 各行事実施後に、行事のねらいを感じ取ったことを適切に記録できるよう、希望する進路実現に向けての支援を高める。</p> <p>② 学びの深さの違いに適切に対応できるよう、学習ツールの効果的な利用について教職員の理解を深める。</p> <p>③ 主体的に学ぶ態度の育成と評価の在り方を研究する。</p>
4	地域等との協働	家庭や地域社会の教育力の活用を推進し協働することで信頼される学校づくりを推進する。	<p>① 地域と共にある学校づくりをすすめる。</p> <p>② 連携する大学と積極的に交流を深める。</p>	<p>① 隣接する二谷小学校や神奈川工業高校、みどり養護学校と連携した活動を行う。また学校行事や防災活動を通じて近隣住民との連携を図る。</p> <p>② 担当者を決定し、計画的な活動内容を構築する。</p>	<p>① 各学校との連携が図れているか。保護者や地域住民の理解が得られているか。</p> <p>② 生徒に有益な高大連携の情報を提供できたか。</p>	<p>① 二谷小学校との交流とみどり養護学校体育祭の手伝いを生徒の自主的な活動で支えた。学校行事や防災活動を通じて近隣住民との連携を図ることができた。</p> <p>② 連携大学以外にも案内やポスター等で生徒だけでなく教職員にも情報提供した。また、積極的に研修会等に参加し、高大接続改革や大学入試改革に関する情報収集をした。</p>	<p>① 地域との身近な協働を心掛け、更に活動内容を深めた取り組みとなる検討する。防災に関しては、区との協議について今後とも話し合っていく必要がある。</p> <p>② 連携大学については、高大接続改革やグローバル研究推進校としての取組を踏まえて、様々な協働のあり方を模索していく。また、単位互換などの制度の整理等を行い、活用をさらに進める。</p>	<p>① 神奈川工業高校や地域との消防団とも協力し、防災訓練を行ったことは評価できる。</p> <p>② 大学に出向き、単位を修得している点は、評価できる。</p>	<p>① 防災の面では少しずつではあるが、連携が取れるようになってきた。</p> <p>② 今後の高大接続改革の内容を注視する必要がある。</p>	<p>① 神奈川区との連携については、今後本格的に協力を進めていく必要がある。</p> <p>② 単位互換制度等の活用を促進するため、わかりやすい案内や説明に努める。また、高大接続改革の情報収集を積極的に行い、職員で共有する。</p>
5	学校管理 学校運営	社会の変化に対応し、意欲的に教育の課題に取り組む学校体制の充実を図る。	<p>① パートナーズ(PTA)活動との連携を図り、学校会計の適正な執行を行うとともに、学校環境の整備を行う。</p> <p>② 情報セキュリティの重要性を周知し、事故等の未然防止に努める。</p>	<p>① 学校会計を適正に執行するとともに、私費会計の配分等を見直し、適正な予算計画を策定する。</p> <p>② 情報管理に関する職員研修等を通じて、その重要性についての理解を徹底する。</p>	<p>① 適切な会計執行が行われたか。また、学校環境の整備のための予算計画の策定ができたか。</p> <p>② 情報管理の重要性について職員に徹底でき、事故の未然防止ができたか。</p>	<p>① パートナーズ(PTA)との連携を図り、PTAの活動が円滑に進められるようにした。また、学校環境整備のため理解と協力を求め計画を立て実行できた。</p> <p>② 職員のみならずパートナーズ(PTA)にも情報管理を呼びかけ、重要性を認識できた。</p>	<p>① 適切な会計執行が行われるよう、今後ともパートナーズ(PTA)と連携を図り学校環境の整備を行う。</p> <p>② 個人情報の保護の観点から研修会等の充実を図る必要がある。</p>	<p>① 今後もパートナーズ(PTA)と連携し学校環境の整備を行ってほしい。</p> <p>② 事故防止への意識の高さについては評価できる。</p>	<p>① パートナーズ(PTA)との信頼関係を築き連携が図られスムーズな活動が行われ学校環境を整備するための適正な予算執行となった。</p> <p>② パートナーズ(PTA)への呼びかけにより個人情報保護への関心が高まった。</p>	<p>① 私費会費の見直しを継続して検討する必要がある。</p> <p>② 情報管理に関する研修会等を開催し職員の重要性への認識を高める必要がある。</p>